

スタートして一カ月

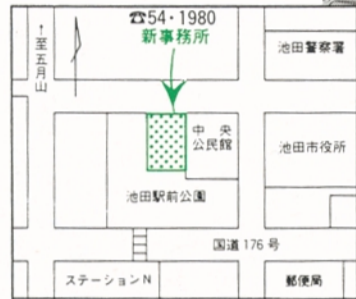
菅原町に働くお年寄りの拠点

高齢者の豊かな経験と能力を生かした地域づくりを目的に、昭和55年8月4日に設立した社団法人池田市シルバー人材センターの新しい事業所が3月28日、菅原町1番18号、中央公民館西隣りに完成しました。



4月1日からここを拠点に、60歳以上の高齢者を対象に、植木のせん定やハガキのあて名書き、掃除や洗濯などの家事補助など、日常生活に密着した臨時的、短期的な仕事を紹介しています。

同センターは鉄骨プレハブ2階建て。このうち1階部分120・08平方メートルが新事務所、事務室、面談室のほかパソコンやワープロ、複写機を備えた事務機械室などがあります。



特に、就業を通して生きがいや社会参加を求めるお年寄りが気楽に面談が出来るように、また、仕事の紹介なども、よりきめ細かな対応が出来るようにと面談室も広く設けています。

同センターでは、現在、会員の募集と、お年寄りの皆さんの豊かな経験と知恵を地域社会に生かそう、と企業から一般家庭ま

で、いろいろな注文を受けています。気楽に、せいぜいご利用ください。

市民に開かれた 働くお年寄りの拠点に



大西國光さん (城南3丁目) 72歳

地域社会のお役に立てればと会員になり、はや7年。現在の市の事務補助をしています。シルバー人材センターも開設後10年たち、事業の伸びも約10

語らい、学び、ふれあいの場

伏尾台にオープン

『コミュニティセンター伏尾台第2会館』



市立伏尾台コミュニティセンター伏尾台第2会館が、市内で5番目のコミュニティセンターとして、伏尾台1丁目188番地に、4月3日、オープンしました。

同センターは敷地面積が434・23平方メートル。鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積327・03平方メートル。1階は多目的ホールなどがあり、2階には会議室と20畳の和室などがあります。



寺谷新一さん (満寿美町) 80歳

受講仲間と共によい経験が

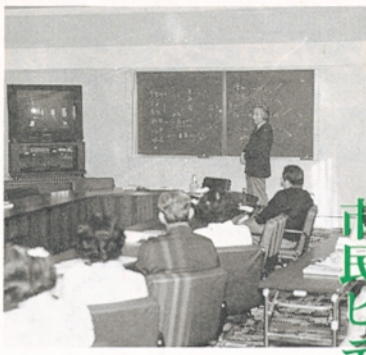
会社を退職して20年。人間としてぬれ落ち葉とならないために健康と生涯学習に目を向けています。2年前、関西で初めてビデオを使った講座が開かれると聞き、好奇心が強い私は早速受講しました。テーマは「地球と宇宙」など。大学と同水準の内容で、ついていけるか少し不安がありました。しかし、映像を通してのわかりやすい講義と受講仲間の温かさにふれながら楽しく受講でき、いい経験ができたと言っています。

同センターの管理、運営は、

市が伏尾台地区の自治会、こども会の代表者ら22人で組織する「伏尾台コミュニティセンター管理運営委員会」に委託しています。

昭和56年12月に伏尾台3丁目にオープンした伏尾台第1会館とともに、同センターも、伏尾台地区のコミュニティづくりのため、「語らい」「学び」「ふれあいの場」としてご利用ください。

市が「市民ビデオ講座」の受講者を募集します。ビデオを利用した新しい学習方法です。あなたもチャレンジしませんか。



放送大学教材による

市民ビデオ (前期) 講座

間工学とは、「内側からみた人体」、「脳のサイバネティクス」、「内面からみた人間」など。

◎特別講義教養ビデオ講座 5月19日～7月28日、毎週日曜日午前10時～11時30分、生涯教育センターで。内容は「免疫と人間」、「細胞の世界」、「避難の科学」、「南太平洋の人々」、「火山桜島」など。

対象は市民と市内に通勤、通学する18歳以上の人。定員は各科目35人(先着順)。無料。テキスト代は実費。申し込みは5月1日(水)から各会場へ直接。問い合わせは社会教育課(内線438)。

やがまち 歴史散歩

No.8

池田をめぐる争乱①

東西交通路としての西国街道、南北交通路としての能勢街道や猪名川の水上交通をはじめ多くの街道などがこの池田の地で交わっています。このことから経済的に繁栄した反面、ひとたび争乱の世になると、常にその争奪の対象となってきました。本号から6回シリーズで池田が巻き込まれた争乱の歴史的特質に迫ってみたいと思います。

猪名川の女神と 武庫川の女神の争い

ある時、住吉大社の神が、りりしい男神の姿となって猪名川に現れ、上流域で宮城を造営するための木材を伐採し、川の流れを利用して運ばせていました。この時、猪名川に住んでいた女神が、この男神にほのかな恋心をいだき、ぜひ彼の妻になりたいと内心その想いをつのらせていました。ところが、猪名川の西を流れる武庫川の女神も同様

にこの男神に恋慕の情を募らせていたのです。このことを知った猪名川の女神は、武庫川の女神に激しい嫉妬を覚え、彼女に猪名川にあった大石を投げつけて打ち倒し、武庫川にはえていた斧をことごとく抜いてしまった。この物語は、このために猪名川には斧がはえています。大石がなく、一方、武庫川には斧はないけれど、大石があるのだという説明で終わっています。

猪名川の上流で木材の伐採を行っていたこと。それも宮城造営のためのものであったという点です。このことから、猪名川の上流域に豊かな森林資源が存在していたことがうかがえます。また、その木材が宮城の造営に用いられるということから、この地域が当時の日本を代表する勢力と密接な関係にあったことが推定できます。さらに、この物語が、摂津一の宮として、また、海上交通の守神として古代社会にあつては非常に重要な位置を占めていた住吉大社を介して語られていることです。

女神の争いの背景

古墳の分布から 流域相互の争いが

つぎに、ふたりの女神の争いの背景ですが、ひとつの考え方として、猪名川流域のひとつと武庫川流域のひとつとの間に直接的な争いがあったのではと考えます。ひとつの伝説として、たとえば、古墳の分布をみてみますと、前期の古墳は両河川流域に認められますが、中期以降、古墳が猪名川流域に集中し、武庫川流域ではその造営が途絶えています。特に、猪名川流域の古墳は当時日本を代表する百舌鳥・古市古墳群と密接な関係をもっていたことがあきらかにされています。少し、想像がたくましくなりましたが、このふたりの女神の争いは、その反映ではないかと考えるわけです。

物語の原形

この物語は、なにも「げに恐ろしきは女の嫉妬」ということを述べようというものではなく、これを述べようというものでありませぬ。このような古代の物語には、その原形となった歴史的事象が存在する場合があります。この物語にもなんらかの歴史的事象が隠れていると考えられます。一般的には、この物語は、両河川がたびたび大きな洪水を引き起こしたことを表すものだと理解されていますが、「住吉大社」、「木材の伐採」、「宮城の造営」などという言葉には、もう少し深い背景があるように思えます。少し想像をまじえた話になりませんが、その原形となった歴史的事象を探ってみたいと思います。



(潮平ゆうこ画)